



## 「よし」「やりなおし」しか言わない塾

数年前に、NHKで「日本で最も成果をあげているという算数の塾」という番組が放送されました。偶然見たのですが、その内容に衝撃を受けました。

「日本で最も成果をあげているという算数の塾」は、中学校入試の算数を教える塾です。香川県では、大多数の人が小学校から公立中学校へ進むため、中学校入試を受ける人は少数です。ただ、大都市では中学校入試を受ける人が多くいます。みなさんの中にも学習塾に通っている人が多くいると思いますが、みなさんが、高校入試合格を目指して成績を上げるために学習塾に通うように、小学校の高学年の子どもたちが学習塾に通っているのです。

普通、有名な進学塾と言われるところでは、塾に入るための試験があります。ところが、この塾にはそのような試験はありません。申し込みをした順番に、誰でもその塾に入ることができます。そのように先着順に入塾を受け付けるのに、8割が超難関と呼ばれる中学校に合格するのだそうです。

この塾の授業が衝撃的なのです。タレントのようなすごい先生が、子どもたちを引きつけるような熱い授業をしている姿を、私は想像していました。しかし、この塾の先生は、授業の始めに「始め」、途中に「よし」「やりなおし」の2種類の言葉、最後に「終わり」としか言いません。授業中、子どもたちも一言もしゃべらないのです。ただ、パズル式の算数の問題のプリントを配って子どもたちに解かせるだけで、説明をしたり、教えたりすることはありません。一つの問題を解き終わった子どもは、黙って手をあげます。先生がその子どもの所へ行きます。正解していたら先生は「よし」とだけ言い、その子どもは次の問題へ進みます。一方、不正解なら、先生は「やりなおし」とだけ言います。先生は、子どもにそれ以外の言葉をかけることはないのです。「やりなおし」と言われた子どもは、黙ってもう一度考え直す。1時間、それをひたすら繰り返すのです。

番組の最後に、その塾の先生のインタビューがありました。この学習塾の考え方は、「子どもは、先生が教えるから自分で考えなくなる。先生の仕事は、学びたいという気持ちを引き出すこと」だと語っていました。この先生は、授業を除いた仕事の時間の全てを「子どもが解いてみたいという問題を作ること」に費やしているそうです。

学校と学習塾の授業は全く別物で、根本的な違いがありますが、「教えるから考えなくなる。学びたいという気持ちを引き出すことだ」という文言は、私たち教師も耳を傾ける価値があると思いました。

さて、みなさん。誰もが、「勉強ができるようになりたい」「成績を上げたい」と思っています。でも、「そのために何をすればよいのかが分からない」という人が多くいると思います。では、何をすればよいのでしょうか？すばり、みなさんの学校の授業、タートルノートなどの家庭学習に対する「心構えと態度」を変えればよいのです。先生が教えてくれるのを待っているような「受け身」や「仕方なく」「やらなければいけないから」ではなく、授業に「自分の意思で」今までよりも真剣に取り組むこと。これが一番効果的であると断言できます。

そして、その「心構えと態度」を変えるためにも、誰にでもできる次の5つのことを毎時間実行してください。

- ◆ チャイム2分前着席
- ◆ 授業準備
- ◆ 机の周りの整頓
- ◆ 授業前後のあいさつ
- ◆ 先生の説明、級友の意見を聞く

これらは、誰にでもできる当たり前のことですが、この簡単なことを毎時間繰り返すことで、学習に対する「心構えと態度」が自然と身に付いてきます。

さあ、明日から、やらされる学習をやめましょう。「自分の意思で」毎日の学校の一時間一時間の授業を真剣に受ける。「自分の意思で」タートルノートなどの家庭学習に取り組む学習に変えましょう。

